

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	2705	学校名	小針中学校	校長名	軽部 直幸	作成者名	早川 信哉
学校教育推進サポート担当者名			教頭 早川 信哉			電 話	025-267-1851

1 実践のテーマ

ポジティブ行動支援（以下、PBS）をベースとした予防的生徒指導体制の構築（2年次）

2 テーマ設定の理由

令和6年度から、不登校生徒及び不登校傾向の生徒への対応を含めた予防的な生徒指導体制の構築のため、グループ担任をベースとした学級経営の推進、生徒の心の状態を把握するためのアセスメントツールの導入、特別支援教育及び生徒指導に係わる研修の実施など、全校体制で取組を進めてきた。

しかしながら、全校生徒およそ800人のうち、40人程度の不登校生徒がいる現状があり、継続して生徒指導体制の構築に取り組むことが必要であると考えた。

令和6年度6月から導入した右図のアセスメントツール（コンケア）について、令和7年度は年間を通じて本格的に活用することとし、令和6年度の実践の成果と課題を基に、アセスメントツールを活用し、継続してポジティブ行動支援をベースとした予防的生徒指導体制の構築を目指す。



3 実践内容

(1) 学校適応感等の把握

信頼性・妥当性が担保された多様なアセスメントツールを活用した実態把握  
 <アセス、心や体調の変化を把握するツールを導入>

(2) 学級経営戦略シートの活用

グループ担任で学級経営を推進する上で、共通の指標や目指す生徒像、課題の共通理解は重要である。一方で、十分に話し合いを行う時間の確保が難しい現状もあり、グループ担任だけでなく、教科担任も含めて担任の思いや願いを共有するためのツールの開発を行う。

(3) 特別支援教育及び人間関係作りの力量向上

多様な生徒・保護者の実態に対応するための研修を継続的に実施する。

4 実践計画

実施時期	実施内容
4月	○職員研修（学級経営①） ○職員研修（アセスメントツールの活用①・②）講師：東京メンタルヘルス 様 ○学校適応感調査（アセス：①）
5月	○アセスメントツール（心の天気予報：コンケア）の全校での活用
6月	○学級経営戦略シートの作成
7月	○職員研修（学級経営②）
8月	○職員研修（特別支援教育） ○職員研修（生徒指導）
9月～12月	○各学級、授業での実践
12月	○学校適応感調査（アセス：②） ○学級経営戦略シートの見直し・修正
1月～3月	○成果と課題の整理。次年度計画の立案。職員研修（学級経営・生徒指導）

## 5 成果

### (1) 学校・学級適応感の高まりについて（アセス：学校環境適応感尺度の結果から）

令和7年度の結果を分析すると、数値の変化における0.07以上の変化を「大きな変化」と捉えた場合、教師と生徒との関係性、生徒同士の関係性の双方において向上が見られた。具体的には、「担任の先生は私のいいところを認めてくれている

(3.967→4.044 +0.076)」「担任の先生は私のことを気にしてくれている (3.638→3.737 +0.099)」といった教師サポートに関する項目で数値の上昇が見られた。また、「元気がないとき、友達はすぐに気づいて、声をかけてくれる (3.542→3.681 +0.139)」といった友人サポートの項目についても大きく数値が上昇した。

さらに、「相手の気持ちになって考えたり行動する (3.902→3.985 +0.084)」の向社会的スキルの項目においても伸びが見られ、人間関係を基盤とした資質の向上が伺えた。これらの関係性の向上を背景として、生活満足感の項目についても全体的に数値の伸びが見られた。「学校生活は楽しい」の項目については、例年の水準を維持しており、安定した学校生活が継続されていると考えられる。

学級づくり構想シート	
令和7年 ①担任:	自由
～1年間でどのように学級づくりを進めていくのか、グループや学年で構想を練りましょう～ ※特に自由に大きさを変えていただく構いませんし、1ページに納めなくても大丈夫です。	
学級目標	
①一全員が力を合わせて、明るく元気で楽しいクラス	
②一人ひとりが力を合わせて、助け合いをし、お互いを認め合えるクラス	
③一つ一教師陣で何事にも全力で取り組み、信頼されるクラス	
学級の実際、傾向（生徒との生活、学級目標、アセスなどからわかること）	
①授業中の私語、うるさくなることが多い、明るい。	
②1分前後席ができる、メリハリを意識していることもある。	
③先生の話を聞いて、言葉遣いが悪い。	
こんな学級を目指したい（5月中旬）【6月20日締切】	
・人のために動く学級	<b>A</b>
・人を傷つけない学級	
・目の前のことに一生懸命になれる学級	
・自分から主体的に取り組むこと（5月上旬～中旬）【6月20日締切】	
①授業中の私語、うるさくなることが多い、ASSESSでの学習の進捗が悪い。	<b>B</b>
②どんな風に授業に取り組むと内容が身につくのか考えられる授業を作る	
③盛り上がりやすい授業、話を聞くタイミング、話を聞く時間を意識させる。	
④1分前後席ができる、メリハリを意識していることもある。	
⑤良さを伸ばし、時間を守る感覚を身につける。	
⑥先生の話を聞いて、言葉遣いが悪い。	
⑦先生の話を聞いて、話を聞くことが多くなってきた。授業参加を意識させる。	
⑧先生の話を聞いて、言葉遣いが悪い。	
⑨一部の男子のいじりげがなくなった。相手の立場に立った言動を意識させる。	<b>C</b>
1年間の振り返り（年度末に向けて）【1月上旬】【1月13日締切】	
ASSESSでは、1回目より2回目の方が、生活満足感、友人サポートの数値が向上した。かわかりが「増えてきている。一方で、非授業関係の数値が減少した。伸びなくなり、言動が乱暴になっている面も感じられる。よりよい関わり方を考えていきたい。	<b>D</b>

<学級経営戦略シート>

### (2) 自己肯定感や自己有用感の高まりについて（新潟市生活意識調査結果から）

自己肯定感・自己有用感に関しては、「学校生活で、友達と力を合わせて学習したり、活動したりしている」の項目が昨年度の水準を維持している。「授業では、自分の考えを伝えている」の項目については、2・3年生ともに昨年度と比較して大幅な上昇が見られた。これは、ポジティブ行動支援の取組により、児童生徒の不適切な関わりが減少したことに加え、日々の振り返りを通して内省が促され、自信をもって学級活動や授業に臨む姿勢が育まれた成果であると考えられる。安心して関わり合える学級風土が着実に形成されてきていることが示唆される。



<職員研修の様子>

### (3) 不登校出現率について

令和8年1月末現在で、30日以上欠席者は44名（R7.3月時点で41名）と昨年度とほぼ同数である。また、年度内に長期欠席となった生徒は、12名ほどであり、例年と比べても大きな変化は見られなかったことから、取組に係る一定の効果があったものと考えられる。

### (4) 学校評価（生徒・保護者アンケート）の結果について

対象	質問項目	前期	後期
生徒	学校は楽しい	88.8%	88.7%
保護者	お子さんは楽しそうに登校している	87%	87.6%

上記学校評価の結果から、全校体制による各種取組の総合的な成果として、学校に対する安心・安全の視点が、生徒及び保護者両対象の意識として高まった状況が確認できる。

その背景には、多様な生徒・保護者の実態に応じた対応を進めるために、特別支援教育計画を根拠とした研修を全校体制で継続的に実施し、教職員の対応に齟齬が生じることなく、対処できていたことも要因として挙げられる。